

# 第16回 河川生態学術研究発表会

河川・海岸グループ 研究員 伊藤 将文

## 1. はじめに

平成25年11月13日に東京証券会館ホール（東京都中央区）にて第16回河川生態学術研究発表会が開催されました。

本研究発表会は、河川生態学術研究会と応用生態工学会の共催によるもので、生態学と河川工学の研究者が共同で川のあるべき姿を探ること、生態学的な観点からの河川に係る研究活動を推進することに加えて、新しい河川管理に資する総合的な研究を進めることを目的としています。

今年度の発表会では、個別河川流域をフィールドとした4つの研究グループの成果発表と各研究グループの研究成果の関連分野を掘り下げて議論をする河川総合研究グループの成果発表が行われました。

また、研究グループの成果発表を踏まえた総合討論を行い、学識経験者や河川に係る関係者による意見交換と情報共有を行いました。

## 2. 発表会の内容

### ○口頭発表

各研究グループより別表のような研究概要報告及び最新の研究の成果報告が行われました。

### ○ポスター発表

ポスターセッションは、恒例のコンテスト形式で10件の発表が行われ、信州大学大学院の斎藤梨絵さんによる「千曲川中流域（千曲市戸倉地区）での自然再生事業における底生動物のインパクト・レスポンス～遺伝的多様性に着目した評価の試み～」が、特に高い評価を得て最優秀ポスター賞を受賞しました。

### ○総合討論

総合討論においては、十勝川、千曲川、多摩川、河川総合研究グループの研究テーマに係る「流量減少と地形変化に起因する河川領域の樹林化」と斐伊川研究グループの研究発表に基づく「外来種も含めた生態系の機能」の2つの視点に焦点が当てられ、聴講者を含めた活発な意見交換が行われました。

また、「生態系の機能」に関連して、多摩川研究グループがニセアカシアの持つ生態系における機能の評価研究結果を実施した成果とその解釈についても討議が行われました。

## 3. おわりに

本発表会はその目的において各研究グループが一堂に会し、河川環境の保全・再生に関わる様々な科学的な示唆を与える情報交換の場として、今後より一層その役割の重要性を増すものと考えています。



総合討論の様子

### 別表 口頭発表テーマ一覧

<b>1. 十勝川研究グループ</b>
・河川景観ネットワークの連結性と時空間変化 ー湧水と氾濫原の変化が生物群集に与える影響に注目してー 中村 太士 代表
・シロザケ個体群の多様性維持における河床間隙水および河川地形の役割 卜部 浩一（北海道立水産孵化場 研究主任）
・人工放流による河道の変化と派川の維持 渡邊 康玄（北見工業大学 教授）
<b>2. 千曲川研究グループ</b>
・千曲川研究グループ 第2 フェーズ研究概要 中村 浩志（信州大学 名誉教授）
・千曲川中流域の生物からみた特徴とインパクト・レスポンス 島野 光司（信州大学 准教授）
・千曲川中流域の生物生産性 平林 公男（信州大学 教授）
・千曲川における一次生産力の推定 萱場 祐一（独法）土木研究所 上席研究員）
<b>3. 多摩川研究グループ</b>
・平成25年度の多摩川研究グループ研究活動概要 星野 義延 代表
・河川敷植生の効果的な管理手法に関する研究 星野 義延（東京農工大学 准教授）
・流域の地質特性と人間活動の影響に着目した多摩川の河相・生物相に関する研究 知花 武佳（東京大学大学院 准教授）
・河畔域の動物群集と生態系 ーハリエンジュ群落の生態的機能に着目してー 加賀谷 隆（東京大学大学院 助教）
<b>4. 斐伊川研究グループ</b>
・人との相互作用によって持続する汽水湖生態系の構築 山室 真澄 代表
・宍道湖での貧酸素水塊形成機構の解明 井上 徹教（独法）港湾空港技術研究所 上席研究員）
・2012年夏季の宍道湖における硫化水素の平面分布 菅原 庄吾（東京大学 特任研究員）
<b>5. 河川総合研究グループ</b>
・河川総合研究グループにおける研究の進め方 萱場 祐一（独法）土木研究所 上席研究員）
・長期流量データを用いた広域流況解析の重要性 三宅 洋（愛媛大学 准教授）